

校 園 名： 大 阪 教 育 大 学 附 属 天 王 寺 中 学 校

所在地：〒 543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

電話番号：06(6775)6045

記載日：2016年 5月19日

記載者：武井浩平

記載者役職：副校長

本校の校風、特色について

質実剛健の校風のもと、生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で、主体的に協同的な学びを展開していくことを重視しています。

各教科の授業はもちろん、教科外活動や学校行事においても、明確な目標を持ち、みずから課題を解決し、本物に触れる体験学習(本物体験)と、コミュニケーション能力の育成を学習の中心としています。

本校の代表的な探究活動である自由研究は、生徒がみずからテーマを設定し主体的に取り組むものです。「そもそも研究とは何なのか」から始まり、さまざまな試みについて、失敗することがあっても失敗からたくさん学ぶことができるよう支援しています。

2年生の富士登山や3年生の修学旅行などの宿泊行事においては、自然の中での身の処し方から始まり、自然との対話，なかまとの対話，そして自分自身との対話を通して人間としての成長，集団としての成長を実現していきます。

このような活動をダイナミックに展開できる背景には、本校と附属高等学校天王寺校舎との連携による、天王寺型の一貫教育があります。中学で基礎・基本を築き、高校で発展的な活動を進めることができるよう、長年にわたって工夫と改善を積み重ねてきました。

都会の中の自然，そして情報と文化の発信の象徴である“学びのもり”を中心に活発なPTA活動が行われています。活動の場としての“学びのもり”では、ピオトープでの授業，屋外の図書施設『道草館』の活用に加えて，コンサート，美術展などさまざまなイベントが企画・運営されています。活動の象徴としての“学びのもり”としては，公開講座や公開セミナーなど，生徒・学校・保護者がともに学び，楽しみ，成長していく活動が展開されています。

このように，将来の市民社会をリードしていくための生きる力の育成に向け，特色あるカリキュラム，生徒主体の多様な学校行事，活発な課外活動などを整えています。

本校の卒業生の活躍状況について

- ① 系統的な追跡調査は実施していません。
- ② 卒業生の活躍状況の把握とその情報については、主に同窓会による連絡や確認作業によって収集しています。
- ③ 寺田 逸郎 … 最高裁判所長官
吉田 昌郎 … 東日本大震災発生時、福島第1原子力発電所 所長
辰巳 琢郎 … 俳優
山中 伸弥 … ノーベル生理学医学賞 受賞 京都大学 iPS 細胞研究所 所長
世耕 弘成 … 内閣官房副長官 参議院議員

勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- ① 系統的な追跡調査は実施していません。
- ② 大阪府や各市町村の教育委員会との情報交換や、各種研究会の案内や参加状況により情報収集を行っています。
- ③ 本校退職後は、国立や私立の大学、または公立の中学校や教育委員会に採用されています。そのうち、半数程度は管理職に就任されています。各方面で教育の中心を担う存在になっています。
また、本校で講師の経験をした教員の多くは、その後採用試験に合格して教諭として採用されています。

魅力ある、特色ある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

1. 自由研究

毎年、およそ3か月かけて各自で取り組む探究活動です。インターネットで検索してもヒットしない、こういうものを「情報量が大きい」というのですが、自分の足でかせぎ、自分だけしか知らない、オリジナルの成果をめざすことが目標です。

ここでは、中心的な活動となる2年生について説明します。

2年生に対して、教員は専門性を生かせる分野をあらかじめ提示します。生徒はテーマを決定するとともに、テーマに合った指導教員を希望することができます。2年生はゼミ形式で取り組みを進めることが多く、そういう意味で学校として最も指導体制を整えているといえます。

6月にテーマ決定から始まった取り組みは、プレゼンテーションの指導を受けたのち、夏休み中の中間発表会を経て、9月にクラスごとの本発表を開催して全体としては終了します。取り組みの記録は1冊のノートと、図書館に保存されるアウトラインに残されます。優秀な研究と発表については、のちに学年発表会や自由研究の冊子代表として発表の機会が設定されています。

50年以上にわたる自由研究の取り組みは、先輩の先行研究を知るだけでも刺激になり、新しい世界への扉を開く活動となっています。

2. 本物に触れる体験学習(本物体験)

富士登山 … 「日本一高い山に登る」という明快な目的です。今年で61回目を迎える伝統行事です。富士宮口5合目からスタートし、1日目は新7合目の山小屋で宿泊します。2日目の午前中に山頂～剣が峰に登頂し、下山後は河口湖周辺に宿泊します。

「ローマは一日にしてならず」など、ものごとの継続や積み重ねを大切にする言葉はたくさんありますが、実際にそれを体験することはなかなかできません。登山は一步一步自分の足で進んでいくしかありませんし、その分登頂した時の達成感は大きいものです。

自然のすばらしさを実感するとともに、安全に行動するための知恵、なかまとの協力など、そこでの体験でしか得られない貴重な学習が生徒たちを一回りも二回りも大きくしてくれます。

修学旅行 … 長野県乗鞍高原での5泊6日の体験活動です。今年で45回目を迎えます。4軒の宿舎に1クラスずつ宿泊し、宿舎の方々といっしょにつくり上げてきたともいえる行事です。

現地学習会やオリエンテーリング、キャンプファイヤーなど、どっぴりと乗鞍で1週間を過ごす活動は“基地方式”と名付けられました。乗鞍に愛着を持ち、卒業してからも旅行などで訪れることが多いことから、長野県で修学旅行のモデルとして注目されました。

プログラムの一つである『テーマ活動』は、グループで行う“ミニ自由研究”ともいえるもので、3年間の自由研究の取り組みが生かされる場面でもあります。

3. 活発なPTA活動

PTA役員と8つの委員会において、教育活動についての意見を集約したり、情報交換をするとともに、公開講座の企画・運営も行っています。

また、“学びのもり”の活動や教育後援会の立場からも教育活動にかかわることができるなど、PTA活動の多様な場面設定があります。

たとえば、“学びのもり”の組織には、活用部会、管理部会、道草館部会があります。道草館部会は、屋外の図書施設である『道草館』の運用を中心に活動しています。屋外で読書をする、気持ちがいいだけでなく、イメージも広がるといわれています。PTA道草館部会の委員と生徒の図書委員会がいっしょになり、生徒や保護者から推薦図書を募集し、選考、発注を経て、屋外の本箱に収められます。

『道草館』では常に誰かが読書をしています。昼休みや放課後はもちろん、登校してすぐに読書をする生徒も少なくありません。読書が好きな生徒が増えました。

また、教育実習生に対して、保護者の立場から学校教育への期待や中学生の家庭での様子などを語っていただいています。大学生にとって貴重な体験です。

さらに、PTAの学習・研修活動も数多く開催されています。保護者からの希望を取り入れて行う公開講座では、『キャンパス見学』や生徒の授業に参加する『救命救急講習会』、『薬物乱用防止講習会』、生徒の行事に参加する『劇団四季観劇』、校外で開催する企画『大坂冬の陣・夏の陣ゆかりの地を巡る』など、実に多彩なプログラムが企画されてきました。まさに保護者も生徒とともに学び、楽しみ、成長するPTA活動となっています。

平成27年度、文部科学大臣より優良PTA表彰を受けました。

地域において、現在、どのような存在であると考えますか

教員養成の役割としては、年間約80名の教育実習生を受け入れるだけでなく、大学の授業の実践的な部分を担ったり、昨年からは教職大学院の研究授業を行うなど、地域の中核となっています。

教科指導の研究会の開催や事務局の設置など、地域の教科指導の本部的な役割を果たしています。教科化が近づく道徳についても、授業の実践と研究会での発表を行っています。

大阪府および各市町村の教育委員会との連携で、教員の初任者研修や10年研修などを実施しています。教員免許更新講習へも講師を派遣しています。

本校に勤務する教員は、研究活動を通して教科教育の指導力を身につけることができるだけでなく、多方面にわたる教育活動を経験、指導することにより、教育者としての感性を磨いていきます。そういった教員が本校から地域の学校や教育委員会へ採用され、それぞれの場所で質の高い教育活動を進めています。

このように、教員の養成と研修、情報発信など、地域からのニーズに合わせてさまざまな活動を展開しています。

附属学校の存在意義、本校の存在意義について

子どもたちへの教育は日本の将来を築く重要な活動です。その教育活動の質を高めるのは直接的には教員の力です。ではその教員の力を高めるためにはどうすればいいのでしょうか。

その一つの道筋として、実際に授業の実践による研究を積み重ねている学校や、教員としての資質と指導力を養成する学校が必要とされます。

義務教育の学習内容は、社会の変革とともに多様に変化しています。その動向に対応し、新たな教育活動の提案が求められます。また一方では、長い歴史の中でずっと変わらない教育の本質を伝えることも忘れてはなりません。

附属学校は、日本の教育をつくり、支える存在であるといえます。

本校は、社会の中で十分に力を発揮することができる人材の育成をめざしてきました。ゴールは目の前にはありません。自分の未来を自分で切り拓いていく力をつけるためには、学力だけでなく幅広く対応できる力が求められます。そのためにはさまざまな体験が必要です。

地域の中核として、日本の将来を築き支えるための教育を実践し、発信する存在であるといえます。